

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873500676
法人名	有限会社 SKR
事業所名	グループホームさくら
所在地	愛媛県伊予郡砥部町高尾田1008-6
自己評価作成日	平成24年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人一人の生活歴、希望、要望を聞き、この利用者は何ができるか、何をやりたいかなどを職員全員で話し合い、日常生活の中で実践し、支援できるように心がけているまた、。職員全員が「笑い」「笑顔」を大切にし、利用者の方も笑顔で暮らせるような支援ができるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●県外に住んでいるご家族が来られる際には、利用者と一緒に空港まで迎えに行き歓迎されている。事業所の夏祭り時には、利用者も浴衣を来て、居間で盆踊りを踊り、夏祭り気分を味わっておられる。「帰りたい」という利用者には、その時に、ご自宅前まで行ってみることを支援されており、ご本人は自宅を眺め納得して事業所に戻られるようだ。
●事業所では、「利用者をごまかさない」ことに気を付けておられ、「利用者からの希望や約束したことは必ず守る」ようにされている。食べ方が分からないような様子がみられたら、職員は利用者の背後からご本人の手を支えて、ご自分の手で食事を口まで運べるよう支援されている。食事時、利用者が若い職員に「じょうや、おたべ」と、みかんをくださることもあるが、職員は「ありがとう」とお礼を言って、利用者と半分ずつ分けて、一緒に食べられるように支援されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームさくら

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

済川 浩志

評価完了日

2012 年 8月 31日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			すべての職員で理念を共有し、日々のケアで実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(外部評価)	
			事業所は、「すべてに感謝。ありがとう。」と理念を作り、パン フレット等に明記して、事業所のケア等への姿勢を示してお られる。職員は、利用者が行なってくださったことに「ありが とう」とお礼を言い、又、ボランティア等に来てくださる地域の方 達にも「感謝」の気持ちで接しておられる。代表者は、ミー ティング時に「自分が利用したいホームにしましょう」と職員に 話しておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議のときに、利用者の方への日々のケアについ てなどの勉強会を行なった。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議には、地域からは民生委員、町会議員、生活相談員、区長等、隣接する小規模多機能ホームの職員の方、利用者家族に参加していただきサービス状況等を具体的に報告している。また、その中で意見をいただき実践に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議を「朋志会」と名付け、時には会議時に利用者と桜餅を作ったり、又、夏祭り等と合わせて行い、参加しやすい会議に努めておられる。会議の開催時間は午前や午後等、「利用者にとっていい時間」に合わせて行っておられる。10月の会議時には「地雷処理の活動」をされている地元の方に来ていただき、お話を聞くことを予定されていた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には町の担当者の方に毎回出席していただいて、時に意見をいただいている。また、町主催の介護支援専門員連絡会、伊予地区介護支援専門員協議会への出席、月1回の介護相談員の訪問がある。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、町の担当者の方も参加してくださっており、事業所の現況を知ってもらったり、「会議は、いろいろな方に来てもらったり、事業所をみてもらうだけでいいのではないかと、会議のすすめ方についてアドバイスをいただいた。調査訪問時には、介護相談員の方の訪問があり、毎回、1名の利用者と居室でゆっくりお話しして、利用者の声を管理者に伝えてくださっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての正しい理解が出来るように、ミーテング時に話し合っている。言葉の拘束についても気をつけている。玄関は施錠せず外に行きたい方は職員同伴で自由に出できるようにしている。	
			(外部評価) ベッドで休むおり、寝がえりしたり移動をよくする方がおられ、ベッドからの転落の心配もあり、職員の提案から床に布団を敷き、マットを広範囲に敷いて、ご本人の思うよう休めるようにされていた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			虐待についての正しい理解が出来るように月1回のミーティング時にも機会があれば話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			現在のところ必要な方はいないが地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度についての研修に参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			利用を予定している方については、ホームの見学や自宅への訪問をし、話し合いの機会を多く持ち、質問内容についても丁寧に説明している。介護保険改定の際は文書で通知している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			家族には面会時や運営推進会議の中で日常生活の中で要望や不安な事などを話していただいている。その内容については職員ミーティングの中で話し実践している。	
			(外部評価)	
			毎月ご家族に送付する書類には、利用者個別に体調等を記した手紙を同封して個々の状態を報告されている。又、外出や行事、食事作りの様子の写真を並べたホーム便りを送付されている。運営推進会議の内容は、ご家族の来訪時に口頭で話しておられるが、ご家族から感想や要望をいただくことは少ないようだ。	現在、ご家族に向けて発行しているホーム便りを利用して、ご家族に知っていただきたい内容を発信されてはどうか。さらに、ご家族と一緒に活動するような機会作り等、信頼関係を深めて、利用者をともに支えていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			送り時やミーテング時、また随時意見を聞く場を設けている。連絡ノートを使って職員に意見を記入してもらっている。	
			(外部評価)	
			ミーティング時には、看護師資格を有する職員が中心となり勉強会をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員の性格や勤務状況を把握するように努めている。また個人面談を行い具体的な意見を聞きやりがいのある就業環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			外部研修会の参加を呼びかけたり、研修ビデオを見たり、ホームにも、介護の本やDVDを置いていつでも利用出来るようにしている。また、毎月のミーティングの中でテーマを決め勉強会を実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			近隣の施設、病院等に挨拶をしてまわり、ネットワーク作りに努めている。また、施設向かいにある小規模多機能事業所の運営推進会議に出席し意見交換している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に家族、本人から生活歴や要望を聞き把握できるように話し合いを持ち安心して利用できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に家族の要望を聞き事業所としての対応などを詳しく 説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			本人と家族の要望や必要としているものを理解し、事業所と してどのような対応が出来るかを話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価)	
			本人の思いや不安、また、好きなこと、食べ物、得意なことな どを把握し生活の中で支えあう関係を築くようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			日頃から家族の方と話す機会を多く作り、本人からの希望 や、訴えなどを家族に相談しながら、協力し合える関係作り に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価)	
			家族の方を中心に、なじみの人への電話や手紙、時には一 時帰宅を希望される方は、職員と家族が話し合い、帰宅でき るよう支援している。	
		(外部評価)		
			県外に住んでいるご家族が来られる際には、利用者と一緒に 空港まで迎えに行き歓迎されている。事業所の夏祭り時 には、利用者も浴衣を来て、居間で盆踊りを踊り、夏祭り気 分を味わっておられる。「帰りたい」という利用者には、その時 に、ご自宅前まで行ってみることを支援されており、ご本人は 自宅を眺め納得して事業所に戻られるようだ。退居された利 用者の中には、事業所に遊びに来てくれる方もあり、おつき あいをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常の会話の中から利用者同士の関係を把握し、利用者同士の雰囲気を感じるようにしている。争いごとになった時にはすぐに仲介している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、病院の転院などの相談が家族からあれば対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の方と対話する機会をできるだけ多く作り、その中で本人の希望や関心を聞き内容をまとめ掲示している。また、日誌等ではできるだけ本人の言葉で記録するように努めている。 (外部評価) 利用者同士や職員との「井戸端会議」でおしゃべりした内容等から情報を得るように取り組まれており、利用者一人ひとりの「食いたいもの・食事の量」「行きたいところ」「やりたいこと・趣味」等の情報を一覧にして台所に掲示されており、新人職員も情報共有できるようになっている。一覧表は、半年ごとに更新されている。介護記録は簡素化されているが、利用者が困ったり、職員がケアに困ったりした場合には、利用者の言葉や状態を詳細に記録するようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約のときや、面会時に、家族から生活歴や生活環境を聞き把握するように努めている。本人からも日常生活の中で話を聞くようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活のリズムを把握するとともに、会話する機会を多くもち現状を把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			職員が日常生活の中から、本人の要望を聞き、面会時には家族と話し合うようにしている。その内容を職員間でミーティング時に意見を出し合い、介護計画を作成して情報共有している。	
			(外部評価)	
			「利用者が心配していること」の軽減に向けた支援ができるよう介護計画を作成されている。計画は、3ヶ月に1回ミーティング時にモニタリングを行い、半年ごとに見直しておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別に記録をし、必要事項は管理日誌や申し送りノートに記入し、毎出勤時に確認するようにしている。その中で必要であれば毎月のミーティング時にカンファレンスを行い情報を共有し見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人や家族の状況に応じて、柔軟な対応ができるように心がけている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			運営推進会議を活用したり、地域の生活相談員の方や地域の職員等と情報交換している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			2週間ごとに1度の協力医療機関からの往診がある。以前からのかかりつけ医で継続される方もいる。緊急時には24時間対応で往診していただいている。必要に応じて職員が同伴して通院もしている。	
			(外部評価)	
			利用者は協力医の往診を受けたり、受診する際には職員が付き添って支援されている。調査訪問時には訪問歯科医が来られ、診察後、利用者と一緒にお茶を飲んでおられる様子がみられた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			看護師資格をもつ職員が1週間に1回以上、また、緊急時や必要時には、すぐに対応できる体制をとっており、日常の健康管理など、いつでも相談できるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			入院時は医療機関と情報交換を行い、なるべく早期退院できるよう医療機関、家族とも相談している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			契約時に重度化したときに事業所としてどこまでできるかを説明している。ターミナルケアについては主治医、家族と十分な話し合いをもち、チームケアで取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			事業所は、開設からこれまでに、2名の利用者の看取りを支援されている。現在は、「口から食べられる間は事業所で」支援し、口から食べられなくなったらご家族と相談して、病院に入院となるようだ。昼食時、職員は、介助の必要な利用者の隣に座り、介助しながら一緒に食事をされていた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 必要時やミーティング時に対応の訓練をしている。緊急時のマニュアルを作成し職員全体に周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 職員全員参加し夜間想定のお知らせ訓練、避難訓練、消火訓練を実施している。消防の担当の方に参加いただき、意見交換している。 (外部評価) 年2回、夜間想定で避難訓練を行っておられ、利用者も参加されている。居間にはメガホンが吊るしてあった。消防署の協力を得て、消火器の使い方等も利用者と一緒に体験された。現在、火災時には、ベランダに一時避難するようになっているが、消防署からは「ベランダから外へ出るためのスロープがあったらいい」とアドバイスもいただいている。今後は、事業所の前にある小規模多機能事業所と合同で訓練を行うことも考えておられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入浴、排泄などのプライバシーを守るための配慮を、ミーティングの中で話し合い、利用者一人ひとりに合った声掛けをするように努めている。職務上知り得た情報は外部に漏らさないように、誓約書を入社時にとっている。 (外部評価) 事業所では、「利用者をごまかさない」ことに気を付けておられ、「利用者からの希望や約束したことは必ず守る」ようにされている。食事の支度等「なんでせんといかんの？」と言われる利用者もあるようだが、職員は、利用者の見えるところに食材を置き、自主的に調理にかかわれるような環境作りに努めておられる。食べ方が分からないような様子がみられたら、職員は利用者の背後からご本人の手を支えて、ご自分の手で食事を口まで運べるよう支援されている。食事時、利用者が若い職員に「じょうや、おたべ」と、みかんをくださることもあるが職員は、「ありがとう」とお礼を言って、利用者と半分ずつ分けて、一緒に食べられるように支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者本人の思いや、希望を聞き取りできるだけ自己決定できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者本人のペースで日常生活できるように努めている。で きる限り本人の希望にそえるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 更衣される時には着る服などもお聞きして、本人に選んでも らっている。理容、美容についても、要望をお聞きするように 努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日常の生活の中でどんな物が食べたいかお聞きして、利用 者の情報を掲示しており、できるかぎり要望にそえるようにし ている。調理の前の準備や、後片付けもできる限り一緒に行 なうようにしている。 (外部評価) ご家族や近所の方が野菜をよく持って来てくださり、季節の 食材を多く採り入れた食事となっている。栄養士の資格を有 する職員や食事作りが得意な職員も多く、おいしい食事作り に取り組まれている。敬老の日には、赤飯を炊いてお祝いさ れたり、新聞広告等を見て、利用者がハンバーガーを「食べ てみたい」と希望され、食べに出かけたこともある。利用者は 「こんなもんか」と納得をされたようだ。又、利用者から「とろけ るようなお肉が食べたい」という希望があり、運営推進会議 時、ご家族もお誘いして、みなで高級なお肉を楽しまれたこ ともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量を毎食後記入している。月初めには体重測定を 行い、食事は一汁三品を目安に調理している。また、必要時 には水分補給量を記録をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後に、口腔ケアの流れが自然に出来るように声掛けを し、能力に応じて介助している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄を記録しパターンを分析し、ミーティング、申し送りの中で話し合い、トイレ誘導するようにしている。失禁の少ない方は布パンツにするように努めている。	
			(外部評価)	
			職員のアイデアで、紙を詰めた段ボール箱をポータブルトイレの下に置き、使いやすい高さになるよう調節されていた。字を読む利用者が多くおられ、トイレの扉には、「トイレ」と大きく表示して場所が分かりやすいようにされていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			必要に応じて繊維の多い食品を取り入れたり、歩行などの運動や腹部マッサージをしたりしている。それでも改善できない場合は主治医に相談している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			午後からの希望が多いので、希望を聞きながら支援している。また入浴を拒否される方には、声掛けを工夫しながら支援している。週3回を目安にしているが、毎日希望される方はできる限り希望にそうようにしている。	
			(外部評価)	
			ご家族等からの要望等も踏まえて入浴を支援されている。だいたい2日に1回入浴できるよう支援されており、毎日入浴することを希望する方には、「順番は最後でもいいですか」とお聞きして希望に沿うよう支援されている。又、介助の必要な利用者も介護用のいすを浴槽のそばに置き介助して、湯船に入り温まれるように支援されている。浴室の前のホワイトボードには、今日入浴する方の名前のマグネットを貼るようにされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			日中は本人の希望で体操や歌、散歩等で活動的に動けるように支援している。本人のペースで休息したり、眠れるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ファイルを作り職員全体が利用者の薬の効能、副作用について把握できるよう努めている。処方が変われば管理日誌に記入し職員全員で情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の出来ること、興味があること、好きなことを把握し情報を掲示していつでも確認できるようにしている。また、集団の中でその方の役割を活かせるよう声掛けをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩は希望時にはいつも行っている。また、季節の花を見に出かけることもある。車椅子も利用し、出来るだけ外の空気を吸えるよう工夫している。ドライブなどの外出支援も行っている。 (外部評価) 近くの園芸農家の畑にお花を見に散歩されたり、利用者からの行きたいところの希望があれば、その日に出かけられるよう取り組まれている。お花が好きな利用者が多く、お花がきれいに咲く場所を探して、季節を楽しみに出かけておられる。よく行く喫茶店には、スロープがあり出かけやすく、お茶を楽しみに出かけておられる。事業所では「利用者の介護度が上がり、以前のようにみなで一緒に外出することが難しくなった」と感じておられるが、個別に出かける機会を作るよう努力されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買物の希望があれば一緒に出かけている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要時はいつでも、電話をかけたり、手紙や年賀状を出したり、できるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファを置きくつろげるようにしている。和室には冬にはこたつを置き、季節感を出している。また、季節の花を利用者に生けていただき飾る事がある。	
			(外部評価) 花壇にお花を植えたり、水やり等の世話をしてくださる利用者があり、調査訪問時にもマリーゴールドや黄花コスモス等の花が咲いていた。事業所では、通信カラオケの設備があり、利用者は日々懐かしい歌を歌ったり、映像に合わせて体操等をされている。居間の壁には「笑う門には福来る」等、名言を書いたポスター等も貼ってあり、利用者はそれを声に出して読まれることもある。居間のソファに座ると外の風景や空の様子がよく見える。カラオケを歌う利用者やそれを聞いている利用者もあり、又、ちぎり絵をしたり、職員とおしゃべりして過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや和室を利用されたり食卓や居室で思い思いに過ごせるようなスペースを設けている。	
			(外部評価) 各居室に花の名前を付けておられる。ベッドやタンスが備え付けられており、出窓に造花を飾っている居室もあった。枕元にベルを置いている方、電気のひもを長くして、先にカスタネットを付け、鳴らして職員を呼ぶ方もおられる。居室の入り口に鈴を付けており、夜間は鈴の音が鳴ると職員は駆けつけてトイレ誘導等をされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使用されていた物を自由に持ち込んでいただいている。テレビ、時計、家族の写真などなじみの物を持ってこられている。	
			(外部評価) 各居室に花の名前を付けておられる。ベッドやタンスが備え付けられており、出窓に造花を飾っている居室もあった。枕元にベルを置いている方、電気のひもを長くして、先にカスタネットを付け、鳴らして職員を呼ぶ方もおられる。居室の入り口に鈴を付けており、夜間は鈴の音が鳴ると職員は駆けつけてトイレ誘導等をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) その人にとって何がわかりにくいかを探し出し、職員間で話し合い改善点があればその都度対応している。	
			(外部評価)	